



「鉄道コンテナ見学会」を開催しました ～岡山県内では初めての開催！～

平成29年3月16日、J R貨物及び中国・四国運輸局と関係機関が共催し、物流事業者や荷主企業から希望する18名に参加していただき、岡山貨物ターミナル駅において「鉄道コンテナ見学会」を開催しました。これまでは主に広島貨物ターミナル駅での開催でしたが、昨年度は山口の新南陽ターミナル駅で開催し、今年度は初めて岡山貨物ターミナル駅で開催しました。



一般的な12フィートコンテナ

第一部では、J R貨物からDVD映像による鉄道貨物輸送についての紹介と説明があり、「鉄道輸送はトラックに比べCO2排出量が8分の1であること」、「片道のみでの利用も可能であること」や、「安全かつ安定的な輸送を確保するためGPSを利用した「列車の位置」・「列車の遅れ」等の情報をリアルタイムに提供できるナビゲーションシステムを導入している」など、メリットの説明がありました。続いて当局からは、運輸部門の省エネ・環境対

策、モーダルシフト等に係る国の政策や支援制度を紹介し、積極的に制度を活用していただくようにPRしました。

第二部では、駅構内展示場へ場所を移し、実際の荷役作業を見学し、31フィートウィングコンテナや一般的な12フィートコンテナ、日本石油輸送(株)の登録商標のSUPER UR(コンテナに真空断熱パネルを採用し、従来の冷蔵コンテナよりも高い断熱性能があるもの)など、さまざまな鉄道用コンテナを間近で見ることができました。

展示されたコンテナの前では性能や特色の説明があり、見た目はほとんど同じに見える12フィートコンテナでも、両側面が開くコンテナや側面と妻面が開くコンテナがあるなど、貨物や荷役場所に応じてコンテナを使い分けることができるようになっていることが紹介されました。

見学会には、昨今の労働力不足や物流の効率化への関心の高まりから岡山民放3局の取材があり、参加者がインタビューされるなど、当日の夕方のニュースで様子が放映され、地元紙にも掲載されました。

交通政策部では、今後もこのような機会をとらえて、労働力不足対策及び環境にもやさしい輸送手段である「モーダルシフト」を積極的にPRし、推進していきます。



31フィートウィングコンテナ



冷蔵コンテナの展示